

手取川上流崩壊地対策について

平成28年4月27日

林野庁近畿中国森林管理局

石川森林管理署

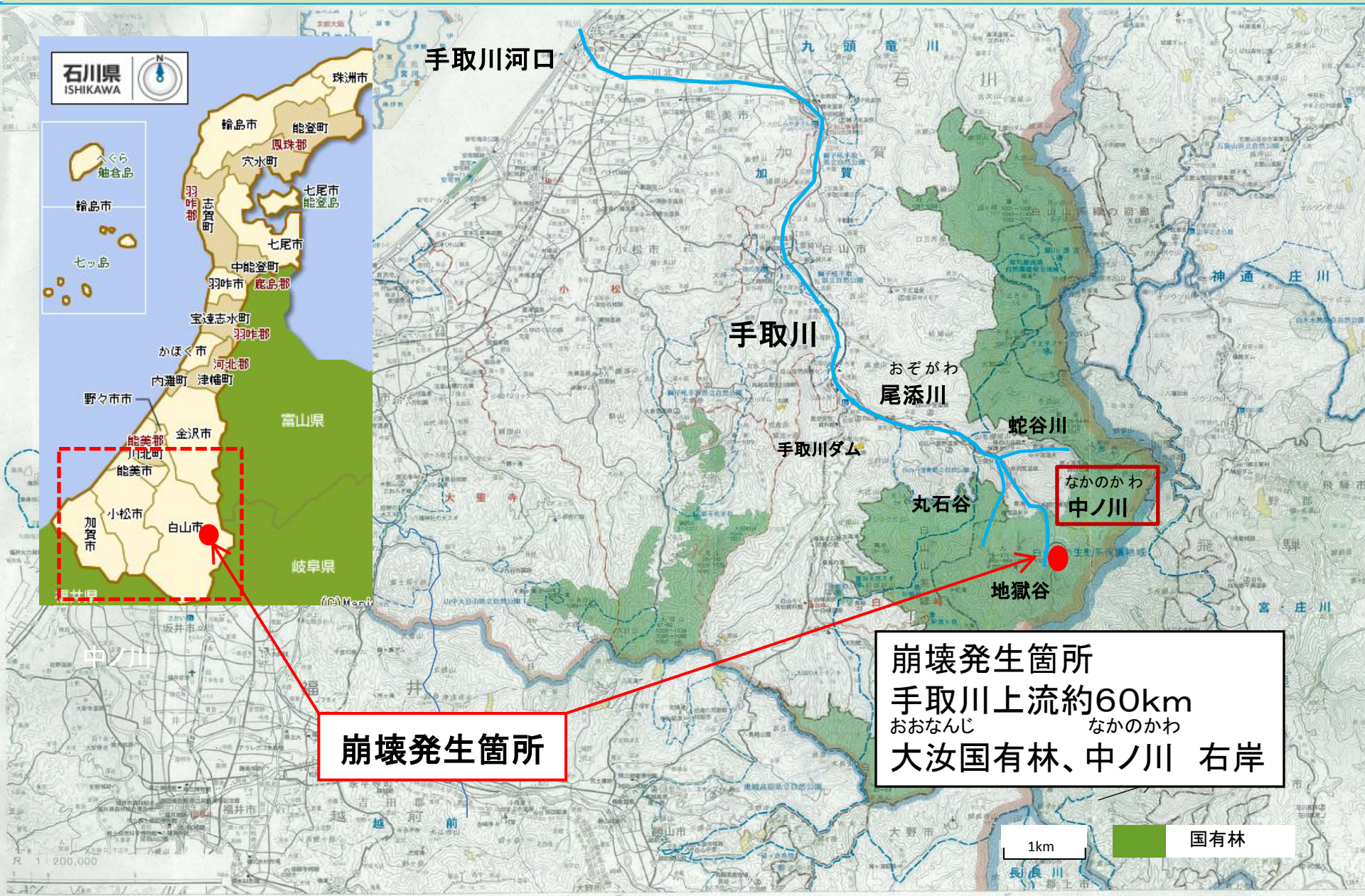


国民の森林・国有林



近畿中国森林管理局

崩壊地の位置関係について



昨年からの対応経過について

2015(平成27年)

- 6月中旬 対策内容の決定
- 7月中旬～9月下旬 復旧対策の実施(侵食防止工、袋型土留工)

～モニタリング結果等復旧対策の効果に係る整理、分析～

2016(平成28年)

- 2月3日 「手取川上流崩壊地に関する技術検討会」開催
〔5名の有識者より今後の対策の方向性について示唆〕

～「技術検討会」の議論を踏まえ今後の対策の方針を決定～

- 3月31日 28年度対策工事に係る入札公告
(侵食防止工、袋型土留工、緑化工)

- 4月19日 ヘリコプターによる融雪後の崩壊地調査
(林野庁・技術検討会委員による合同調査)

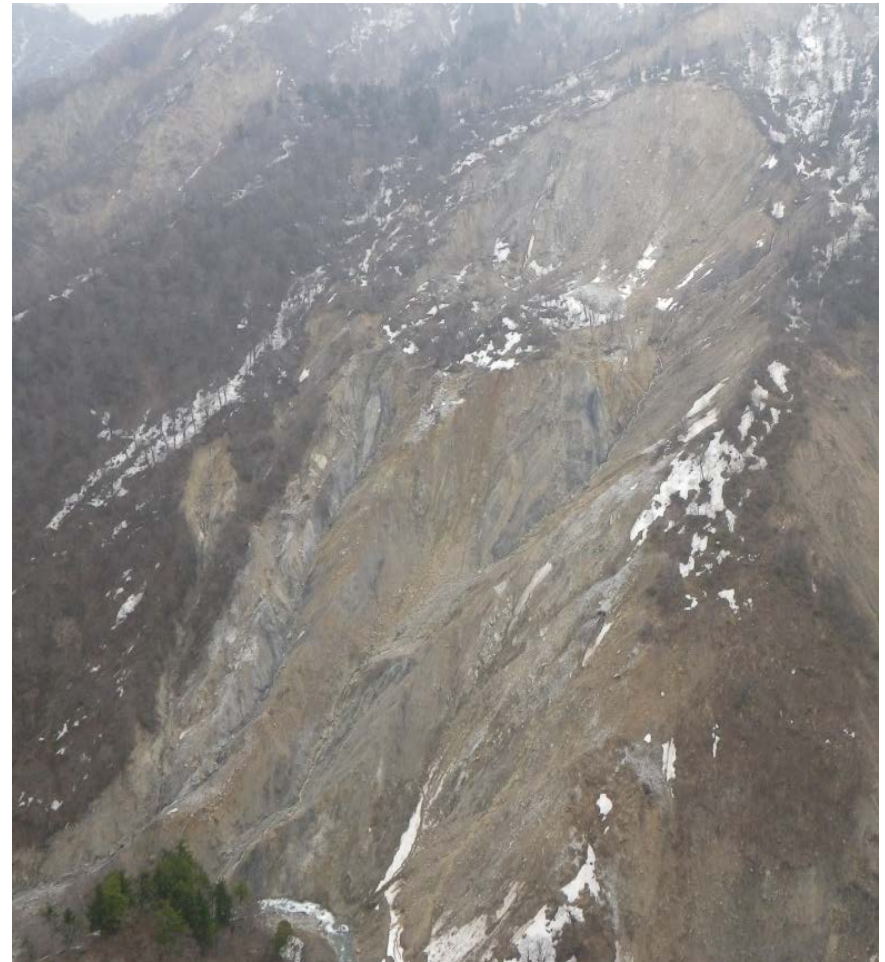


融雪後の崩壊地調査結果について

「技術検討会」での御指摘に基づき、現地の融雪のタイミングを見極めた上で、4月19日に林野庁及び技術検討会委員による合同調査を実施したところ。

【結果概要】

- 昨年10月の降雪前の状況から、目立った拡大崩壊は確認されなかった。
- 昨年度実施した侵食防止工は、昨年10月時点から一部剥がれの進行が見られたが、袋型土留工が崩壊土砂の移動抑制効果を発揮していると思われる状況も確認。
- 斜面上部において平坦堆積地などの比較的土砂が安定している状況を確認。今後、播種等により、緑化を進めることが可能と考えられるところ。



【H28.4.19ヘリコプター調査により確認した崩壊地の状況】

28年度対策の内容と進め方について



- 3月31日 28年度事業に係る入札公告
- 4月19日 技術検討会におけるヘリによる現地調査
- 5月12日 28年度工事開札
- ～6月中旬 **対策①**
 - 内容 袋型土留工の設置(300個程度を想定)
 - 目的 土砂移動の抑制による緑化の確実性向上

～ 梅雨期 ～

- 7月中旬以降～
 - 対策②**
 - 内容 侵食防止工の実施
 - 目的 当面(夏季)における土砂流出(濁水)の軽減
 - 対策③**
 - 内容 緑化導入工の実施(ヤナギ等郷土樹種を活用)
 - 目的 緑化による崩壊地の本格復旧

※秋口には、29年度対策用の種子採取も関係機関と連携し実施予定

(参考)技術検討会を踏まえた28年度事業のポイントについて

28年度は、雪解け後の調査結果を踏まえつつ、技術検討会で頂いた示唆を踏まえ対策を実施する方向。

「技術検討会」での主な御示唆

(「手取川上流崩壊地に関する技術検討会」の概要について)(平成28年2月5日)抜粋)

- ①現地へのアクセスを考慮すれば、ヘリコプターを活用した侵食防止工や緑化工が中心となる。
- ②確実に緑化が進むよう、関係機関と連携して可能な工法を検討することが必要。
白山の生態系を損なわず早期に斜面を被覆できるような植栽工法の開発も同時に行う必要。
- ③崩壊地の緑化に向けては、画一的な対策ではなく、崩壊斜面を地帯区分した上で、対策を講じることが有効。

28年度対策の内容

- 早期の対策実施の観点から、引き続きヘリコプターによる対策を実施。
併せて、早期発注により梅雨前後の天候が安定する時期での施工期間を確保。
- 石川県立大学・環境省と連携しつつ新たにヤナギ等郷土樹種を活用した挿し木・播種等による緑化に向けた取り組みに着手。
(4月13日 3者による打ち合わせ実施)
- 崩壊斜面の状況(侵食が激しい箇所、堆積が進んでいる箇所等)を踏まえ、侵食防止工や緑化工等対策工法を使い分けて実施。